

「自治宝くじ」で地域づくり

～自治宝くじコミュニティ助成事業～



宝くじの受託事業収入を財源とした、財団法人自治総合センターの「平成22年度自治宝くじコミュニティ助成事業」に、本市から2団体が採択され、地域づくりのためにさまざまな整備を行いました。

☎企画情報課 ☎22-1324



▲7月25日の御柱祭で、元気に神輿を引く子どもたち

が6年に一度の「御柱祭」とあって、おそろいの法被を着用し、御柱と一緒に神輿行列を盛大に行うことができました。

今後も大人から子どもまで一丸となって、地域コミュニティ活動が一層盛り上がりつついくことが期待されます。

●助成額 250万円
●助成内容 子ども神輿1基、神輿用山車1台、大人用法被20着、子ども用法被30着

■越河第2区自治会

越河第2区自治会では、毎年地区内で開催される「越河諏訪神社祭」に子ども神輿を出すことで、古くから伝わるお祭りを子どもたちに継承し、地元の良さを体感してもらおうと取り組んできました。

これまでは手作りの樽神輿を使用し、修理と更新を繰り返して行っていたが、樽や法被の損傷が激しいことや子どもの減少に伴い、維持管理が難しい状況になっていました。また、「本物の神輿を子どもたちに引かせたい」「おそろいの法被で行列に参加させたい」という思いもありました。

今年には特に、越河諏訪神社祭

子どもたちのため、地域のため

長年の願いであった「子ども神輿」の助成を受けることができ、大変感謝しています。今後は大切に使用し、子どもたちの楽しみの創出と育成のため、さらに地域活性化に役立てていきたいと思っています。



▲8月14日のふれあい夏祭りには、多くの地区民が参加しました

■滝上自治会

滝上自治会では、伝統行事である「滝上ふれあい夏祭り」「地区体育大会」「視察研修」などを通し、地区コミュニティの醸成に積極的に取り組んでいきます。しかし、行事の開催に当たりテーパーやイスなどの備品がなく、また、テントや集会所内の備品の劣化が進み、思うような運営ができない状況にありました。

今回、宝くじコミュニティ助成事業を受け、備品を整備したことにより、今年のふれあい夏祭りに際し、今年以上に活気あるお祭りになりました。今後は、地区の皆さんがさらに団結し、地

さらなる活性化を！

長年の目標であった備品整備がかない、大変うれしく思います。整備した備品を今後の自治会活動に役立て、地区の皆さんの交流を深めながら、地区を活性化していきたいと思っています。



域の活動が盛んになることが期待されます。

●助成額 200万円
●助成内容 会議用テーブル25脚、折りたたみイス60脚、イベント用テント1張、石油ストーブ3台、扇風機3台、発電機1台、投光器3台、コールドリール1台、こたつ1脚、こたつ布団1枚、液晶テレビ1台、テレビ1台、VHS/DVDプレイヤー1台

平成21年度

公立刈田総合病院の経営状況

医療機能の維持・高度化に努めました

「公立刈田総合病院改革プラン」に基づき、医師や看護師の確保などに取り組みましたが、目標を達成することができず、厳しい体制での運営となりました。しかし、病院長を中心に、全職員が一丸となって医療機能の維持と収入の確保、経費の節減に努めました。

●病院情報システムの更新
2カ年にわたる病院情報システムの更新を完了するとともに、MRI診断装置などを整備し、医療機能の維持・高度化を図り、より充実した医療を提供できるよう努めました。

●患者数(平成20年度比)
延べ数で、入院が6,305人の減少、外来は5,790人の減少となりました。

●収入と支出(平成20年度比)
収入では、入院収益で1億342万3千円の減収、外来収益では4,438万9千円の減収となり、収入総額は46億5,020万7千円で、前年度に比べ1億158万2千円の減収でした。

支出では、1億4,799万9千円の減少となり、費用総額は52億2,868万8千円で、収支差引5億7,848万

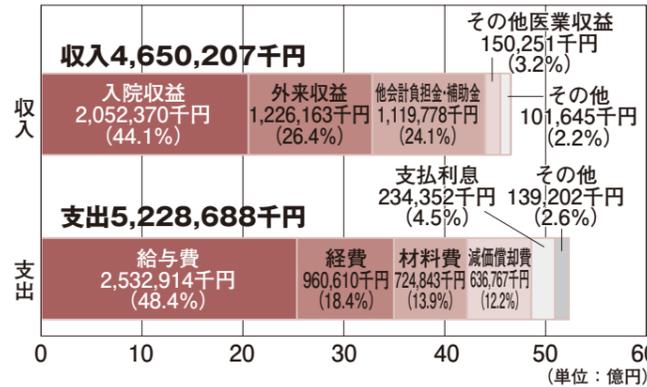
1千円の純損失となり、現金支出を伴わない減価償却費を除いた実質的な収支差引額は、5,828万6千円のプラスでした。

これは構成市町から臨時的に繰り入れられた、運営費補助金5億5千万円が収入に含まれているためです。医師不足に伴う患者数の減少により診療収入が減少し、病院の経営状況は厳しさを増す現状にあります。

●地域の基幹病院として
病院経営は依然として厳しい状況ですが、住民の皆さまの健康を維持・増進できるよう、医療機能の充実や施設の整備を図るとともに、信頼される病院を目指すため、職員がより一層意識を高め、情熱をもって行動し、改革プランを推し進めます。

☎公立刈田総合病院経理課 ☎25-2145

●平成21年度の収支



●平成21年度診療科別患者数

科別	内科	神経内科	脳神経外科	消化器科	呼吸器科
入院	18,017人	3,554人	3,146人	4,246人	0人
外来	35,262人	4,613人	1,359人	6,150人	1,156人
科別	小児科	整形外科	外科	産婦人科	耳鼻咽喉科
入院	3,445人	4,277人	10,531人	2,364人	0人
外来	10,389人	13,075人	8,826人	4,974人	3,586人
科別	眼科	皮膚科	泌尿器科	循環器科	
入院	471人	0人	50人	4,270人	
外来	11,876人	4,090人	1,961人	7,865人	

■資金不足比率の公表について

資金不足比率は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、公営企業において公表することとされている財政指標です。この指標が経営健全化基準以上となった場合には、経営健全化計画の策定など、行財政上の措置を講じる必要があります。

算定基礎数値となる、当病院の平成21年度の流動負債額は2億850万1千円、流動資産額は9億3,146万6千円で、流動資産の額が流動負債の額を上回っているため、資金不足はありませんでした。

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
公立刈田総合病院事業会計	-	20.0%

※資金不足額がないので、「-」を記載しています。
●資金不足比率=資金の不足額÷事業の規模
●資金不足額=
(①流動負債+②建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高-③流動資産)-④解消可能資金不足額
※算定結果が「△」となる場合は、資金不足がないことを示します。
※②④については、当病院には該当額がありません。
●事業の規模 = 営業収益の額(医療収益)-受託工事収益の額
※受託工事収益の額については、当病院には該当額がありません。

●年度別状況

